

ガストロミーツーリズムの重要性とUNWTOの取組

2021年12月4日

国連世界観光機関(UNWTO)駐日事務所

副代表 鈴木 宏子

1. UNWTOご紹介と国際観光動向





159加盟国及び6地域と
500以上の賛助加盟員から構成

国連の専門機関(スペイン マドリッド)

持続可能な観光の促進

観光政策における課題及び実用的な観光
知識の議論の場の提供

世界の観光統計の収集、分析、予測

UNWTO駐日事務所

1995年: UNWTO唯一の地域事務所として日本に誘致
アジア太平洋地域の29か国2地域の観光を支援

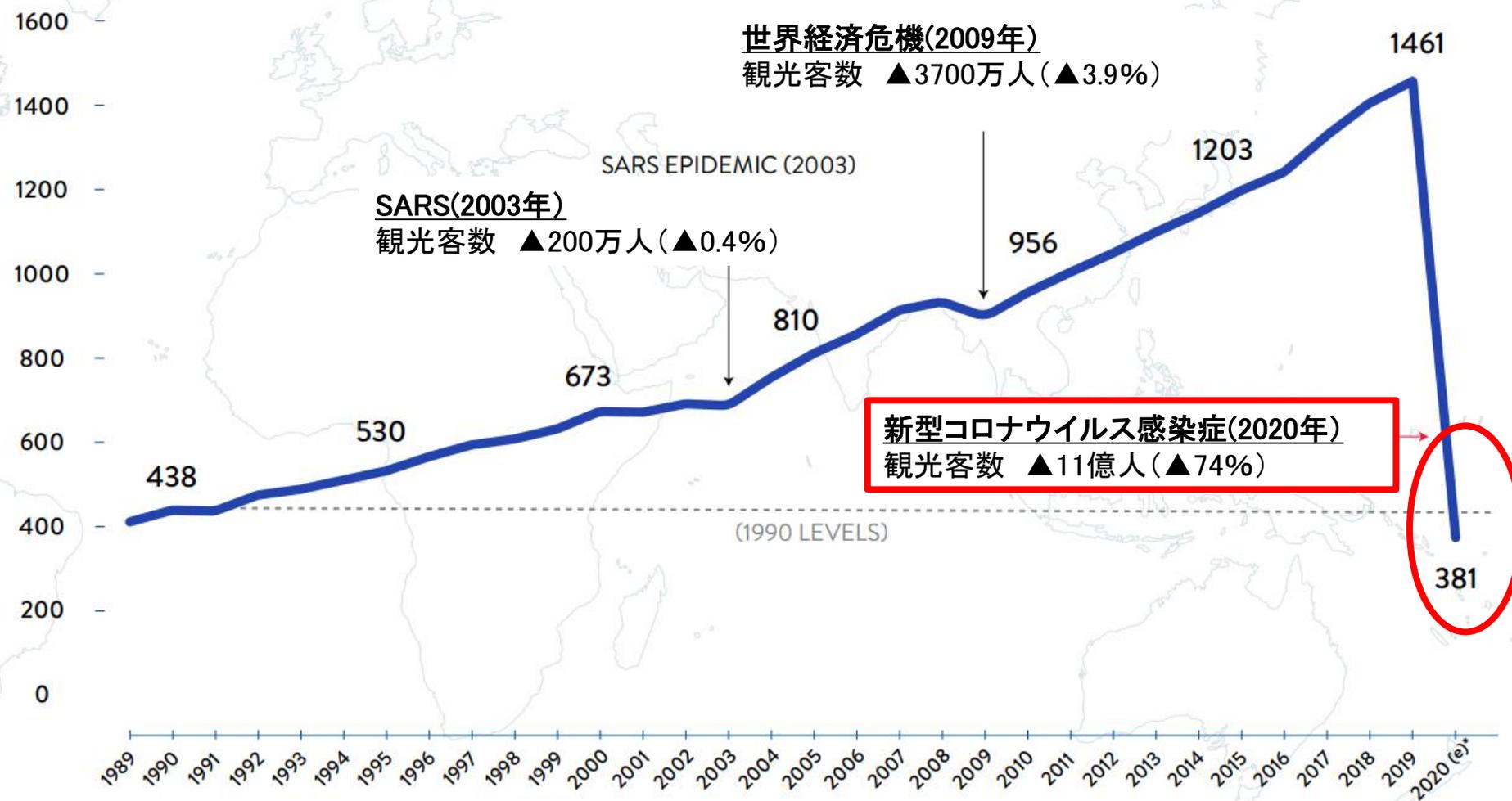
自治体・観光事業者の支援による運営

持続可能な観光地づくり等に関する調査研究、シンポジウム等の開催

国際観光は1990年代の水準まで後退

(百万人)

【国際観光客数の推移】



コロナ禍が観光に与えた影響

国際観光客到着数の減少
-74%

国際観光収入の損失
1兆3,000億米ドル

世界GDPの損失推計
2兆米ドル以上

観光の直接的雇用の減少
1億-1億2,000万人

コロナ禍からの回復に向けたUNWTOの提言

★61%が「今よりサステイナブルに旅行したいと思うようになった」(30か国約3万人を対象とした調査(2021年6月))

(出所)Booking.com“Sustainable Travel Report 2021”

★72%が「旅行を通じて地域コミュニティを応援したい」(7か国1万人を対象とした調査(2021年1月))

(出所)「世界の旅行トレンドに関する報告書(アメリカン・エクスプレス、2021年)」

観光客の行動変容 (UNWTOによる予測)

責任ある持続可能な観光

持続可能な観光への関心がコロナ禍で高まっている。観光客は、持続可能性、本物であること、地域コミュニティに良い影響を与えることを追求

新たな懸念

健康・安全対策やキャンセルポリシーが、消費者にとっての主な懸念に

出所: UNWTO Covid and Tourism <https://www.unwto.org/covid-19-and-tourism-2020>

より近く

より近隣の場所へと旅をする傾向

密を避ける

自然、ルーラルツーリズム、車の旅が人気に

若年層に回復力

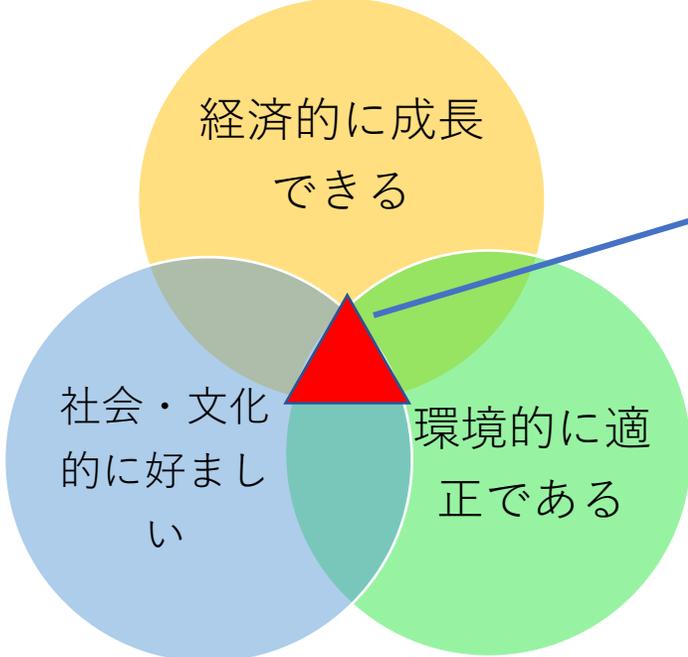
旅行の回復は若年層が牽引

「コロナ禍からの回復を加速するためのUNWTOの提言(2020年4月)」

- 刺激策と復興対策において、持続可能な観光を国家的課題にしっかりと位置付ける

なぜUNWTOはガストロノミーを重視するか ～UNWTOの取組について～

【持続可能な観光のイメージ図】



3要素を両立させる観光が“持続可能な観光”

なぜガストロノミーツーリズムは重要か

ガストロノミーツーリズムとは、、、その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、その土地の食文化に触れることを目的としたツーリズム

ガストロノミーツーリズムの利点

- ①地域の差別化がしやすい
- ②訪問者に新たな価値観・体験を与えられる
- ③観光資源が乏しい地域でも始められる
- ④ストーリーが語りやすい
- ⑤再訪意識を促進する

訪日外国人が日本での体験で期待すること

第1位「日本食を食べること」、

第6位「日本の酒を飲むこと」

(観光庁訪日外国人消費動向調査、2020年)

訪問先で郷土料理を楽しむ

地域のライフスタイル・文化を味わう

地域の本質を見出したい

ガストロノミーの体験は、観光名所を訪問するのと同じくらい重要

ガストロノミーに関心の高い観光客は、本物志向が強く、平均以上に消費する傾向

ガストロノミーツーリズム世界フォーラム

目的

ガストロノミーツーリズムの推進、持続可能な発展に向けた、世界各地の優良事例・知見の共有



世界から日本へ！

第7回 日本（奈良）

日程 2022年6月13日～15日（3日間）（予定）

主な出席者 ・各国観光大臣級、政府関係者、自治体関係者、教育関係者
・観光関連事業者、シェフ、出版社等

主な会場 奈良県コンベンションセンター

参加想定 国内外から約600名程度（延べ1800名程度）

第1回 2015年 スペイン（サン・セバスティアン）

第2回 2016年 ペルー（リマ）

第3回 2017年 スペイン（サン・セバスティアン）

第4回 2018年 タイ（バンコク）

テーマ:テクノロジーの力と新しい価値提案を世界にプラスの影響をもたらす推進ドライバーとして活用

第5回 2019年 スペイン（サン・セバスティアン）

テーマ:雇用の創出と起業家精神の促進

第6回 2021年 ベルギー（ブルージュ）

テーマ:ルーラル・ツーリズムと地域の発展



ガストロミーツーリズム世界フォーラムの奈良県誘致に際するPRポイント

奈良で開催する意義

- シルクロードを通じて、ユーラシア各地の様々な文明を受け入れて形成された日本最初の首都・平城京が置かれた**国際交流都市**であり、「日本の食文化発祥の地」
- 脈々と受け継がれる「食」の**伝統**を、時代に即した形で魅力ある**観光資源**として**磨き上げ**、持続可能な形で**地域振興**につなげてきたこと



ガストロミーに関する主要な観光資源

- **食のブランド化**
 - ・大和の伝統野菜、大和肉鶏、大和牛、アスカルビー、三輪素麺
- **奈良独自の食文化**
 - ・「柿の葉すし」、「奈良漬」、「大和の雑煮」
- **神事としての食文化の伝承と現代生活への息吹**
 - ・春日若宮おん祭(春日大社)、献氷祭(氷室神社)等



ガストロミーに関する主な取組

- 食のバリューチェーンの担い手をつなぐ、**NAFIC**(なら食と農の魅力創造国際大学校)の**設立**
- 世界的に著名なスペインの料理大学校バスクカリナリーセンターとNAFICの連携を推進
- 眺望のいいレストラン認定制度(2011年~2018年)
- 農山村まるごと収穫体験&ウォーク(2002年~)、奈良フードフェスティバル(2009年~)、奈良のうまいもん巡り(2014年~)

ベルギー大会の結論 ルーラル・ツーリズムと地域の発展

- ガストロノミーツーリズムは、地域の文化、農産物、人々を結び付け、地域の持続可能な発展（経済、文化・社会、環境）に大きく貢献し、地域に活力を与える
- 観光回復戦略の一環として、ガストロノミーツーリズムを重点的に位置付ける
- 地域のガストロノミーツーリズムにおいて、デジタル化を推進する



食に関する バリューチェーンの発展	観光客の分散 都市部と非都市部をつなげる	地域文化の継承	地産地消
小規模な 食品生産者の支援	地域コミュニティの エンパワメント		持続可能な資源利用 環境の持続可能性

奈良県への期待

- ガストロノミーツーリズム世界フォーラム開催を契機として、日本のガストロノミーツーリズムをリード
- 奈良県・日本のガストロノミーツーリズムの多様性、先進性について世界に発信
- 生産者、事業者、地域の人々をつなぐとともに、人々の心身の健康・幸福感を促進。持続可能な社会の実現

ご清聴ありがとうございました



2019年にUNWTO、日本観光振興協会、(株)ぐるなびの共同研究として発表。日本におけるガストロノミーツーリズムの優良事例を18つのケーススタディーで紹介。駐日事務所HPに日本語訳あり



地域におけるガストロノミーツーリズムの発展に向けて、行政、DMO等が取るべき行動や推奨事項について示した実践的なガイドライン。駐日事務所HPに日本語訳あり

お問い合わせがあれば、UNWTO駐日事務所 (info@unwto-ap.org) までご連絡ください。